Vol.1

2025 Feb.

フリーペーパー ver.

ラミナクオリカ

Lamina Qualica

意識

見えるって素敵

ラミナクオリカ
Lamina Qualica

ラミナクオリカ Vol. 1

フリーペーパー ver.

CONTENTS

記事

意識の謎 …… 05

詩

片思いの詩 …… 10

他

意識検定 …… 12

意識の謎

赤いと答えた友人がいた。満遍に咲く、名前は分からない確かに赤い花を目に入れて、ただその色を溢した。他の感想あるでしょ、という言葉は下手だ。誰も悪くはない。けど、友人の赤を汚した気がした。

意識があるということ

私は、見ることができる。

背の高いデパートのカフェ。窓際の席。下を覗き込んで見える人々。まるでＮＰＣ。ふと目に入る店内のインテリア。花瓶。心に刺さるものがあると、綺麗、とでも思う。――これらはどれも、この世界でただ一人、私だけが持ったはずの経験。

この経験をそっくりそのままあなたにシェアすることはできない（仮にできたとしても、断られるかもしれませんが）。目の前の花瓶にアスターが咲いていたとして、その赤や紫を完全にコピーしてあなたに見せることは決してできない。

見えているという経験は、私の中に生まれて、私の中で消える。

頭を揺らしてもフリーズしたりすることなく、安定して見えている。この見えているという経験は一体どこで生まれているのか。

いま何か経験をしているという感覚を、この記事では意識と呼ぶことにします。

日本語は、平然と、意識があると言う。

意識があるとはどのようなことなのでしょうか。そもそも意識とは何なのでしょうか。何かを見ているとき、確かに私に意識はあるのだけども。

この記事でそれらの疑問に答えることは残念ながらできません。でも、あなたの時間を少しだけ頂いて、意識って素晴らしいと感じてもらうことはできるかもしれません。ひいては、日々、見たり聞いたりする行為が、何だか少し、かけがえのないものに感じられるかもしれません。

意識はどこにある？

見たり聞いたりできるのは、ほぼ間違いなく頭の中の脳のおかげでしょう。であるならば、脳を調査することで意識のことがわかるかもしれません。実際、脳の調査で、意識について様々なことがわかっています。見たり聞いたりしているときに脳がどのように活動するのかであったり、無意識のときに脳はどうなっているのかなど、色々なことがわかっています。

でも、脳の中を調査しても、私が見たそのものはどこにもないのです。私が見ている様子が、脳のどこかの映画館で上映されているわけではないようなのです。わかっているのは、神経細胞という脳の中の小さな物体が、一生懸命に活動をしているということです。

脳の中にスクリーンはない。

たくさんの神経細胞が電気を使って会話をしている。

私の意識は脳の中には見つからないけれど、もしかしたら、生まれてすぐ消えているだけで、見つからないように逃げ回っているだけかもしれません。でもよく考えると、脳という物質から、見ているという意識が生まれること自体が一体全体どういうことなのでしょうか。

水素と酸素が反応すると水が生まれます。実験でも確かめられますし、計算でも説明ができます。では、神経細胞が電気を使って会話をすると、どうして「見ている」という意識が生まれるのでしょうか。

そもそも脳内で生まれていると言う考えが間違いなのでしょうか。では、どこで？　心臓？　皮膚？

どこであれ、物質から「見ている」という感覚が生まれるというのは、とても不思議なことに思えます。

あなたの友人の意識

ところで、自分自身には確かに意識があるとして、他の人も同じように意識があるのでしょうか。

目の前の友人が笑顔を浮かべ、楽しそうにしているように見えても、その内側で一切何も経験していないということはありえるのでしょうか。

きっと友人にも脳があるでしょう。神経細胞が一生懸命に活動していることでしょう。でも、その友人にはなんら一切の意識がないということはありえるのでしょうか。

神経細胞があるなら、笑うことも、楽しむこともきっとできるはずです。

そんな存在はありえないと私は思います。でも想像すること自体はできる。そして何より怖いのは、そんな存在がいないということを確かめようがないということです。友人の内面を覗くことはできないんだから。

この考え方は「哲学的ゾンビ」と呼ばれています[1]。外見や行動は人間そのもの。それなのに、内側には何もない。意識が存在しない。そんな〝人間もどき〟を想像することはできる。

素晴らしい意識

この記事を書いている私はゾンビではありません（そう信じています）。この記事を読んでくださっている、あなたにもきっと意識があるはずです。

意識があることで、この世界を、見たり、聞いたりすることができます。美味しいものを食べたときに、美味しいという感覚を持つことができます。

チョコレートは美味しい。

私たちは、計算をして終わるコンピュータとは違うのです。

意識というテーマはとても不思議で、奥深いものです。科学技術が非常に進歩した現代でも、まだまだ解き明かされない謎が意識だと思います。

この雑誌では、普段あまり気にすることのない意識にほんのり目を向けてあげて、私たちの生活にちょっと変わった楽しさをお届けしていきたいと思います。

片思いの詩

１０センチ先。君の目の裏。白い壁を抜けて、灰色のもや。モルタル壁。

白い壁はまた現れて、やっぱり何も見つからない。

振り返ると、いくつか分かれ道。こっちに進んだらもう少し色々ある気がして（カラフルな方がいいかなって）、緩やかな下り坂を選ぶ。途中、寄り道したりもしてみる。

何かあると期待してたわけではないし、君が僕を見ている証拠なんてない。

きちんと、僕は花火も見たかったです。

君が見ている光を眺められて満足で、君が聞く波も頭に入ってくるし、味も、匂いも、触り心地も同様です。

聞くことも見ることも、何にもなくても平気な世界で、ふと気づいたらアイマスクのように張り付いていて、交換とかしてみたらどうかしらと思ったりするけれど、僕のを君にあげられないし、君のも受け取れない。

こうして隣にいて、美味しいって潰れた言葉を放りあって、なんとなく分かった気をしている。

いつかの未来、君と僕で、全く同じ神経回路網をシェアして、全く同じ神経活動を享受できるようになるのでしょうか。

そうなったとき、別にロマンチックじゃなくて構わないけど、分かったつもりのままでいられる私を見つけようと思う。

意識検定

意識に関する問題です
意識の不思議を楽しもう！

Q1

17世紀の哲学者であるルネ・デカルトは脳の松果体が身体と精神の接合点であると主張した。

--- Yes / No

Q2

鏡を使った自己認識テストに合格したのは人間のみである。

--- Yes / No

Q3

脳波計（EEG）を使うと、意識の量を直接測定することができる。

--- Yes / No

A1

Yes

デカルトは身体と精神は別ものだと考えました。そして、脳内の松果体という部位が、身体と精神を繋ぐ特別な場所だと考えました。現代では松果体はそのような部位ではないと分かっていますが、身体とは別に精神があると仮定したときに、脳のどこかにそれらの接合点を考えるのは不思議ではないかもしれません。

A2

No

鏡を使った自己認識テストを用いると、テスト対象が自分を理解しているかどうかを確認できるとされています。私たち人間は鏡を見たときに「これは私」と認識できますが、他の生物においてもそうであるかはわかりません。これまでの研究で、ネコやイヌ、サル、トリ、イルカにおける一部の種が自己認識テストに合格しています（つまり、自分を認識できるとされています）。

A3

No

脳波計（EEG）は脳の電気活動を測定します。しかし、その測定が私たちの意識の程度を測っている訳ではありません。私たちが何も経験していないと感じられる無意識下（睡眠時など）でも脳は電気活動を行っています。脳波計はあくまで電気活動という物理現象を測定するものであり、私たちの意識を直接的に数値化するものではありません。意識を測定することはできるのでしょうか。

意識検定 公式 Web サイト
https://ishiki-kentei.com

ご意見・ご感想大募集

X の固定ポストやダイレクトメッセージ
もしくは Google Forms にお寄せください!

ラミナクオリカ 公式 X アカウント
https://x.com/lamina_qualica

ご意見・ご感想投稿 Google フォーム
https://forms.gle/meprgKhGnq4Nwh1M6
(1分で終わります!)

参考文献

[1] Chalmers, D. J. (1995). Facing Up to the Problem of Consciousness. Journal of Consciousness Studies, 2(3), 200–219.

意識 (〈1冊でわかる〉シリーズ) - スーザン・ブラックモア (著)

Consciousness: An Introduction Third Edition - Susan Blackmore (著), Emily T. Troscianko (著)

製作サークル　ラミナクオリカ（Lamina Qualica）

発行日　2025年2月8日 初版 発行

お問い合わせ

X のダイレクトメッセージにお寄せください

ラミナクオリカ 公式 X アカウント
https://x.com/lamina_qualica

お願い

紹介や引用を目的として、本誌の内容が写った写真を撮影し、SNS やブログ等に掲載頂くのは大歓迎です。ただし、本誌を手に取って頂いた方がひどく不利益を被ることがないように、数十ページまたは全部を複製、配信することはご遠慮ください。あくまで常識の範囲内での掲載をお願いいたします。なお、本誌の内容を無断で改変、改ざん等を行うことは禁止します。